

# 持続社会を支える人々の繋がりを整える

## 4.1 歴史的町並みでのライフスタイルを共に考える

活発な地域活動を持続するためには、担い手が地域に定着し続けていくことが欠かせない。そこで、地域に対する興味や関心といった意識の萌芽が見られたら、歴史的町並みで出来ることや暮らし方を具体的に考えてみる機会をつくった。そして、各自が何らかの気づきを生み出し、それをみんなで共有することを目指した。

### ■先進事例から学び、出来ることを考えてみる

先進地区から講師を招聘し、先進地区での取組みを学び、それを手掛かりに自分たちの町で出来ることを考えるワークショップを定期的実施した(写真1)。NPO 尾道空き家再生プロジェクトから講師を招いた際は、尾道の様子や NPO での取組み、空き家活用や NPO 運営のノウハウなどをご教示いただいた後、それをもとに空き家に関する疑問や活用方法について、地域住民・行政・専門家や関心の高い若者などが意見交換し、共有をはかった。福井県若狭町熊川宿伝建地区から講師を招いたワークショップでは、グループごとに地域づくりに関する真剣な議論が交わされ、発表会の場で各グループの身の丈に合った目標や課題を宣言し共有をはかった。図1にワークショップの成果の一例を示すように、この取組みを通じて住民憲章や行動規範などと同じように、決して強制ではないが、各自の意識と、それぞれの地域における指向性を高める成果を創出できた。また、このような取組みを同じ地域で活動する住民・行政・学校などの多主体のステークホルダーと共有することができた。



写真1 先進事例から学ぶワークショップの様子

①私たちは、 <u>火災を発生させない街に</u> したい。		①私たちは、 <u>重伝地区のにぎわいを創出</u> したい。	
<p>②今までこんなことを取組んできたよ！ だけど、今はこんな課題や悩みがあるよ！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の防災訓練、夜回り</li> <li>・年末、消防署と連携</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区外との防災に関する連携</li> <li>・警報機(自宅)が浸透していない</li> </ul>	<p>③こんな事ならすぐにも出来るかな！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消火栓(初期)を付ける(地区内)</li> <li>・回覧板等での防火に対する定期的啓発</li> </ul>	<p>②今までこんなことを取組んできたよ！ だけど、今はこんな課題や悩みがあるよ！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修理修景は進んでいるが、これから継続して実施する人がいるか？</li> <li>・伝建制度のPR不足(周知不足)</li> <li>・月1回の清掃活動を今まで通り続けてほしい</li> <li>・若い人がいない、後継者がいない</li> </ul>	<p>③こんな事ならすぐにも出来るかな！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花いっぱい運動</li> <li>・クリーン作戦(ゴミ集め)</li> <li>・火災報知器、消火器</li> <li>・おもてなしの場所づくり</li> </ul>
<p>④すぐには難しいけどこんなことやりたい！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無機警報機の設置</li> <li>・宅地の奥への消火栓設置</li> <li>・発見、通報の体制づくり(夜、空き家での発見の仕組み)</li> </ul>	<p>⑤ ④の実現に向けた課題とその解決策！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民1人1人の意識啓発(近所づきあい、コミュニティづくり)</li> <li>・人を集めるための工夫</li> </ul>	<p>④すぐには難しいけどこんなことやりたい！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場</li> <li>・電柱の地中化</li> <li>・公衆トイレ</li> <li>・小中学校に地元を見直すような教育を入れて頂ければ、将来の地元の安定につながると思うが、難しい</li> <li>・観光客の誘致(外国人も含めて) = 体験型を好む</li> </ul>	<p>⑤ ④の実現に向けた課題とその解決策！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所と資金</li> </ul>

図1 ワークショップの成果の一例

## ■ここでの暮らし方を実践によって感じてみる

次代を担う者の定住や空き家・空き店舗活用の促進を目指して、歴史的市街地での暮らしを体験しながら、そこで暮らすための課題や将来像を発見し、そして議論し、蔵の街栃木でのライフスタイルを具現化する「平成栃木宿」ワークショップを企画(図2)した。この企画はこのまちで出来る(または、このまちだから出来る)生活やしごとを考える宿泊体験型のワークショップである。目標として、①若者が働き暮らしたくなるまちの未来を考え、地域の皆さんに提案する、②未来のまちに求められる具体的な店舗や施設を企画する、③11月の「クラモノ。」で、成果報告と疑似的な施設運営を行う、ことを定めた。ワークショップは、栃木のまちづくりに興味のある高校生から30代までの次代の担い手を対象に1泊2日で行うもので、初日はまち歩きやチームごとに与えられた課題についての現地調査、報告会等を行い、2日目は空き家の清掃を行いながら、その建物の活用方法を考え、11月に嘉右衛門町伝建地区で開催される「クラモノ。」の時期に合わせて実際にそこで疑似出店してみようとするものである。プログラムの中では、本研究プロジェクトで作製した活用計画案(38項参照)の紹介などを行い

ながら、参加者の意識や創造力を高めていくことを計画した。実際に活用事例として紹介する建物に滞在することにより、短時間の中で効果的に意識と創造力を高められることが期待できる。残念ながら2015年9月の関東東北豪雨により会場が浸水被害を受けたため2015年度の企画は延期になったが、将来の栃木にとって有意義な企画と考えており、関係各所と連携しながら定例的に実施していくことを計画している。

## ■将来像を地域で共有する

本研究プロジェクトでは、歴史的町並みでのこれからの暮らしを創造し、様々なアイデアを考えてきた。その成果を地域の方々に発表する場を設け、町の未来を考える際の話のタネにさせていただくことを期待し、地域住民や役所の関連部局の担当者などを招いた意見交換会「くらし創造会議」を開催しまちの将来像を共有した(写真2)。



写真2 くらし創造会議の様子

## 『平成栃木宿』参加者募集

このまちで出来る、このまちだから出来る生活やしごとを考える宿泊体験型のワークショップです。地域の歴史や文化に触れながら、このまちでの将来のライフスタイルを創造し、実現してみませんか！

開催日：9月20日(日)・21日(月・祝)  
1泊2日

宿泊場所：嘉右衛門町周辺の歴史的建造物

対象：高校生から30代までの栃木のまちづくりに関心のある方

定員：20名程度  
(応募多数の場合は抽選)

参加費：3000円

主催：とちぎ町並みデザイン研究会KURANE  
共催：「伝建地区における総合防災事業の開発」プロジェクト  
(研究代表：小山工業高等専門学校建築学科・横内基)  
協力：マチナカプロジェクト、栃木県教育委員会伝建推進室

### ■スケジュール(予定)

【1日目】フィールドワーク(現状分析、課題の整理)  
9:00 集合(集合場所は参加者に後日連絡)  
チーム分け(景観チームと仕事・暮らしチーム)  
オリエンテーション  
10:30 町歩き・現地調査(途中、各自昼食)  
16:00 作業会場に集合  
17:00 休憩・夕食  
19:00 チームごとにまとめ・各チームの報告  
22:00 就寝

【2日目】空き家活用の企画立案  
7:00 起床・朝食  
9:00 空き家再生活動  
12:00 昼食  
13:00 チームごとに活用方法の検討  
16:00 各チームの報告・まとめ  
18:00 解散

【11月に開催予定の「クラモノ。」】  
疑似出店

### ■申し込み方法

参加をご希望の方は、8月31日までに、住所・氏名・電話番号(自宅・携帯の両方)・メールアドレス・所属(学校名や勤め先)を下記のいずれかの問合せ先までメールでお知らせください。高校生については、申込み後に保護者の方の同意を確認させていただきます。

### ■問合せ先

とちぎ町並みデザイン研究会KURANE 事務局  
kuraneyo@gmail.com  
0282-28-6580(小山高専サテライトキャンパス)  
大波能郷(マチナカプロジェクト)  
mach-i-naka@hotmail.co.jp  
横内基(小山高専)  
yokouchi@oyama-ct.ac.jp

図2 平成栃木宿の募集案内